

YASHICA

 ELECTRO 35 **GX**



使用説明書

●シルバー/ブラック両タイプ共通

特 長

お買上げありがとうございます。

エレクトロ35GXは、ローソク1本の明るさから快晴の雪景色まで、いつでもどこでも美しいカラー撮影が簡単にできる自動露出機構に、画期的なオートフラッシュ機構をプラスした、コンパクトタイプ35ミリレンズシャッターカメラの決定版です。

特に、ストロボ撮影のために、ヤシカが開発した専用ストロボ“ES-20オート”は、カメラに取付けたままで左右に回して照射角度を選ぶことができる新しいタイプのストロボです。

また、ストロボをカメラから離して発光させ、被写体の立体感を強調したり、白い天井や壁に直接光をあててその反射光で被写体を引き立たせるバウンス撮影、あるいは2個のストロボを使い、一方を主光源、他を補助光として同時に発光させる撮影方法など、さまざまなストロボテクニックに利用するコード、アダプター、ブラケットなども揃えました。

エレクトロ35GXによる一般の撮影はもちろん、これら専用のストロボやアクセサリを使った、オートストロボ撮影においても、このカメラの特長を活用されて、あなたの撮影領域をさらに広く楽しいものにしてください。

目次

各部の名称	3・4
撮影の基本操作	5・6
電池の入れ方	7
バッテリーチェック（電池点検）	8
フィルムの入れ方	9・10
ASA感度の合わせ方	11
シャッターロックレバー・ファインダー	12
ピントの合わせ方	13
カメラの構え方・撮影の基本	14
オート撮影のしかた	15・16
露出チェックのしかた	17・18
逆光撮影・スポット撮影の方法	19
セルフタイマーの使い方	20
フィルムの取り出し方	21
オートストロボ撮影	22～29
（ヤシカES-20オートのストロボ撮影）	
フラッシュバルブ・一般ストロボを使用するとき	30
被写界深度とは	31
アクセサリ	32
性能表	33
カメラの手入れ・電池の取扱い	34

基本操作編

エレクトロ35GXは、絞り優先のオート撮影ができますので操作は簡単です。はじめに、この基本操作編をよく読んでください。とくに、操作手順を間違いなく行なうようにするために、説明にしたがって基本操作を十分理解してから撮影をはじめてください。オートストロボ撮影については、22頁～29頁を読んでください。

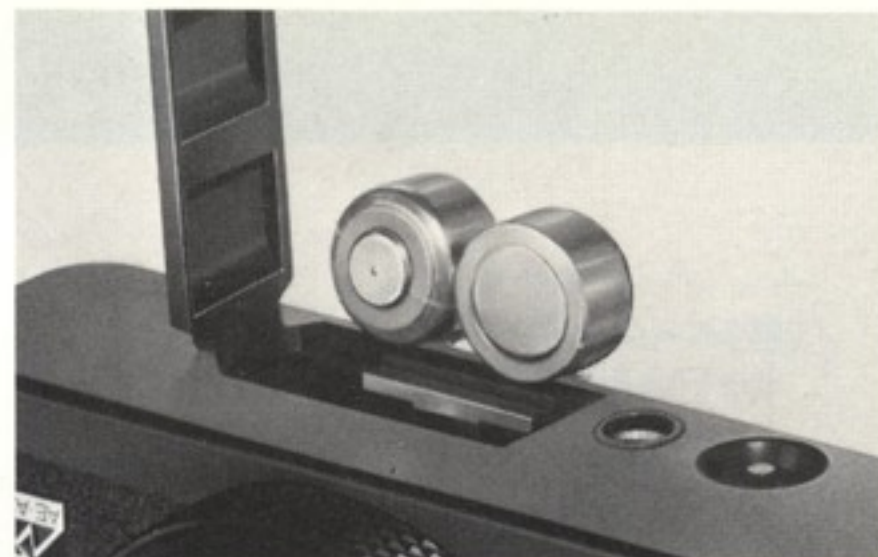
各部の名称



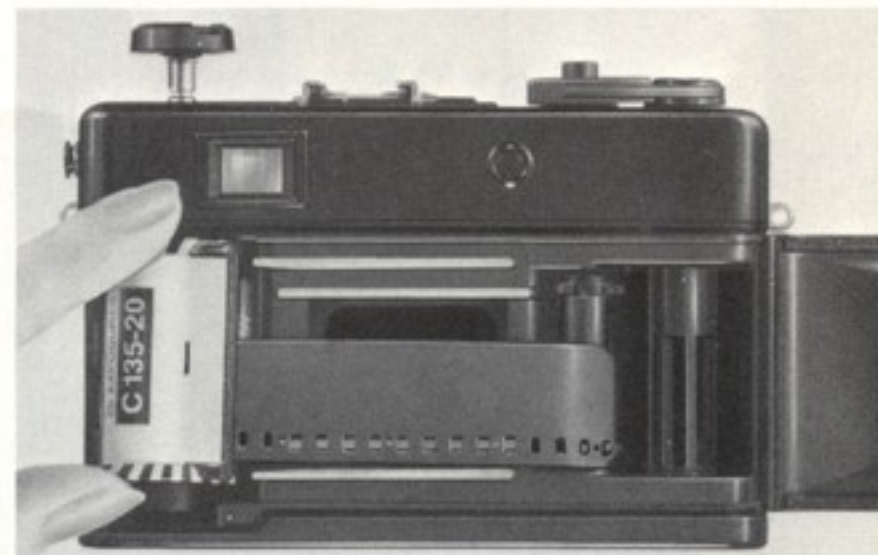


撮影の基本操作

1 電池を入れます (7頁参照)



2 裏蓋を開けてフィルムを入れます (9頁参照)



3 フィルムのASA感度を合わせます (11頁参照)

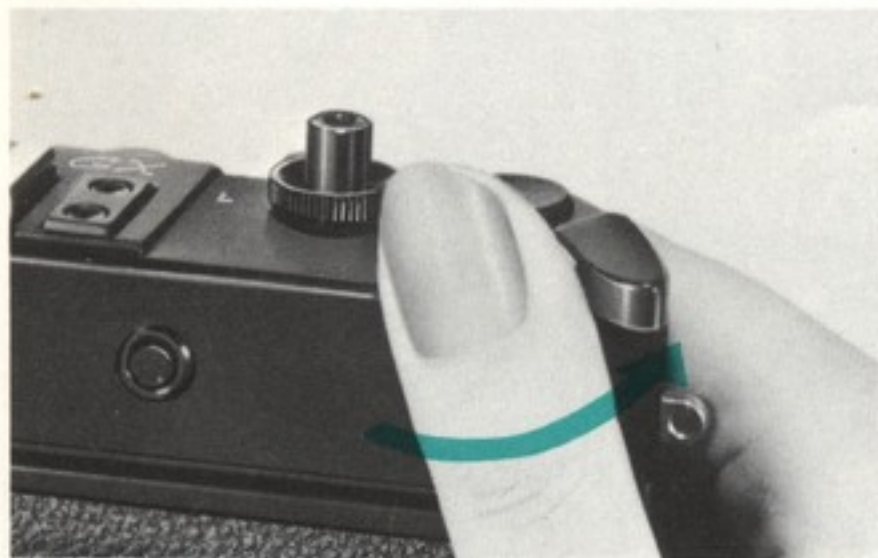


これだけの操作でカラーが自動的に写せます。

4 絞りリングのお天気マークを合わせます
(15頁参照)



5 フィルムを巻上げます



6 ピントを合わせてシャッターを切ります
(13頁参照)



ピントが合っていないとき



ピントが合っているとき

電池の入れ方

このカメラは電池が入っていないと、シャッター及び露出機構が正しく作動しません。

必ず電池（2個）を入れて使用してください。

〈使用電池〉——水銀電池（1.4V）2個

国内 ナショナル HM-N 東芝 H-N

海外 エバレディ E640N マロリーPX640

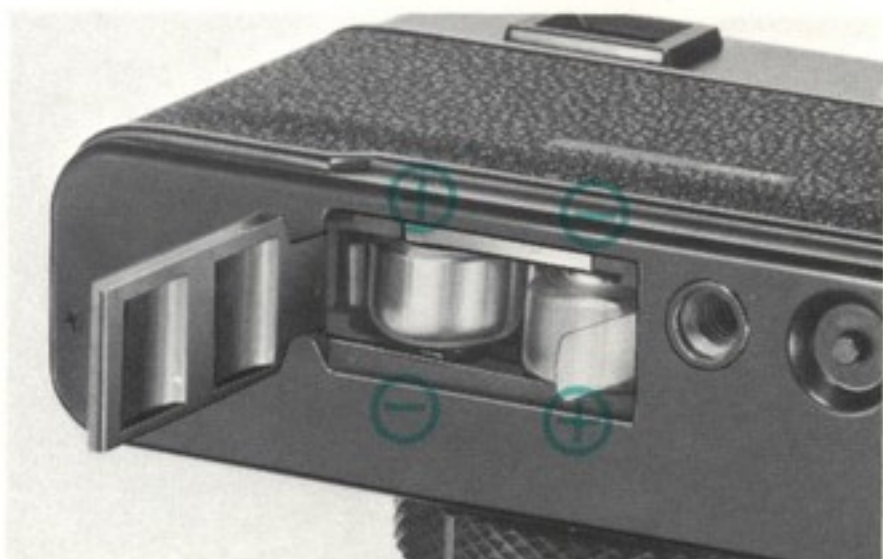
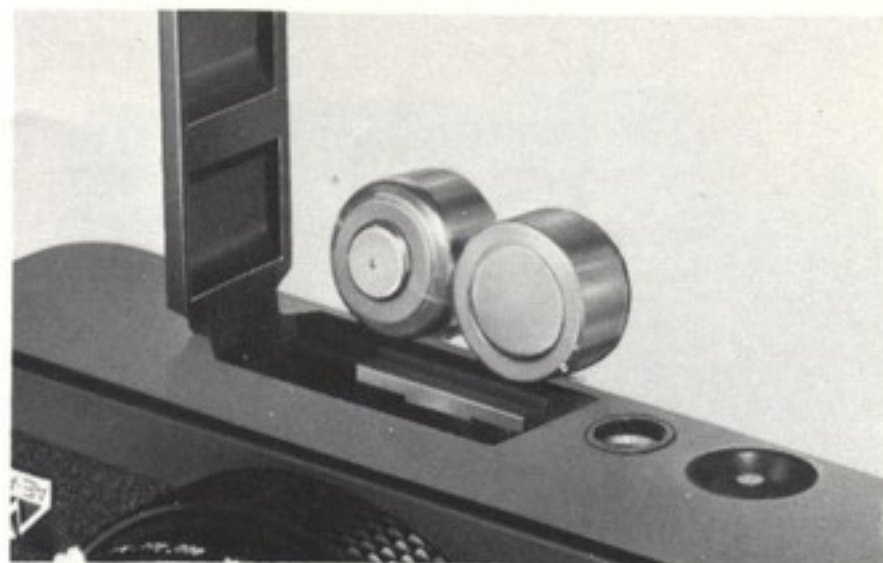
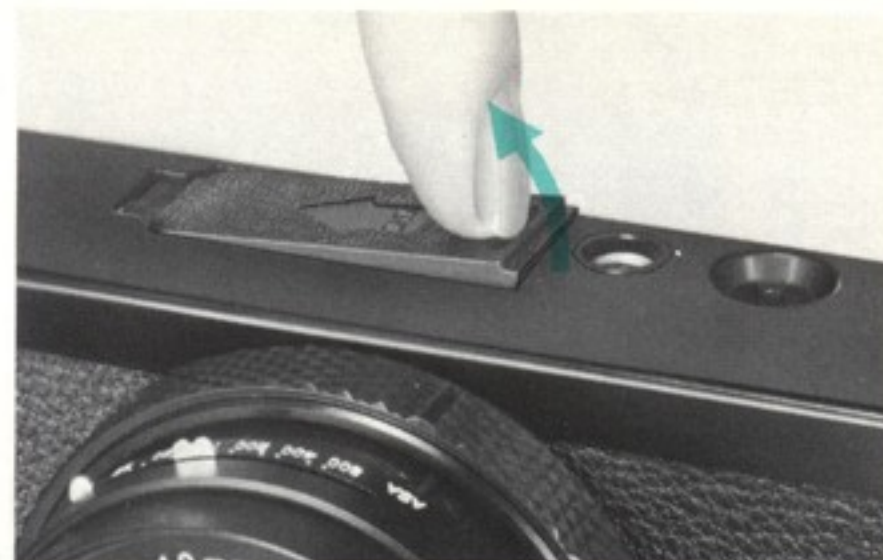
1 バッテリー室カバーについている溝に爪をあて、矢印方向（OPEN）にスライドさせて持ち上げると開きます。

バッテリー室カバーは、例・写真の状態まで起したところで電池を入れるようにしてください。それ以上無理な力を加えると破損する恐れがありますから注意してください。

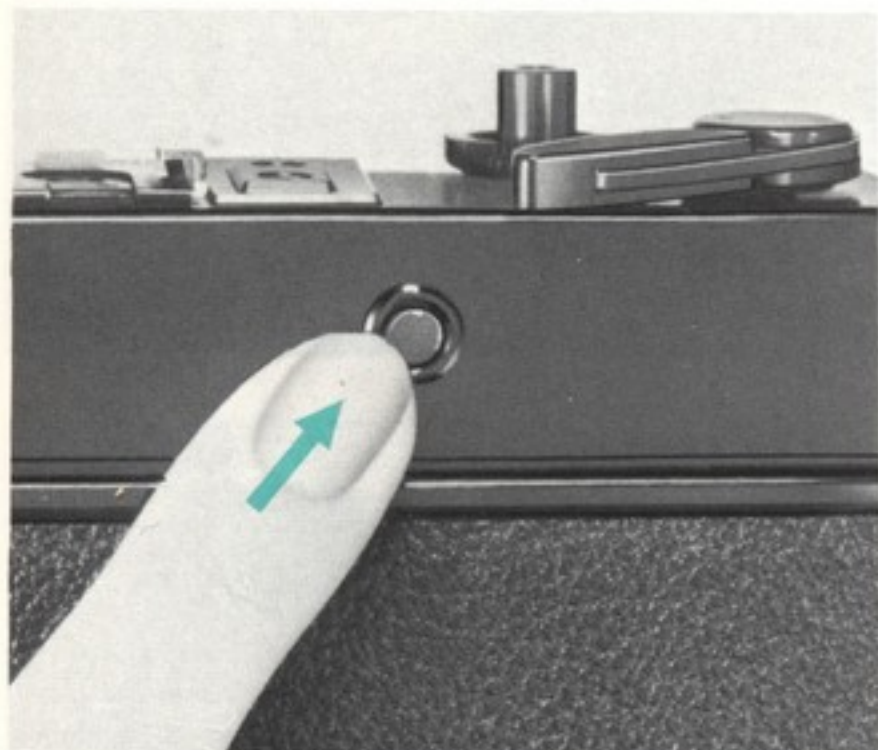
2 水銀電池をバッテリー室の図解どおり、 \oplus と \ominus を正しく入れてください。

間違えるとランプはつかずシャッターも正しく作動しません。このとき中のテープが電池の下になるように入れてください。また、電池を取り出すときは、テープをひっぱれば簡単に取り出せます。

3 電池を入れたら、バッテリー室カバーを矢印方向に押しながらかけてください。



バッテリーチェック(電池点検)



次のようなときは、電池をチェックしてください。

- 電池を入れ替えたとき。
- カメラを長い間、使わないで置いて再び使うとき。
- カメラをかなり使用して、電池が消耗していると思うとき。

電池の電圧が規定以下になると、正しい露出が得られませんから、必ず電池をチェックしてください。

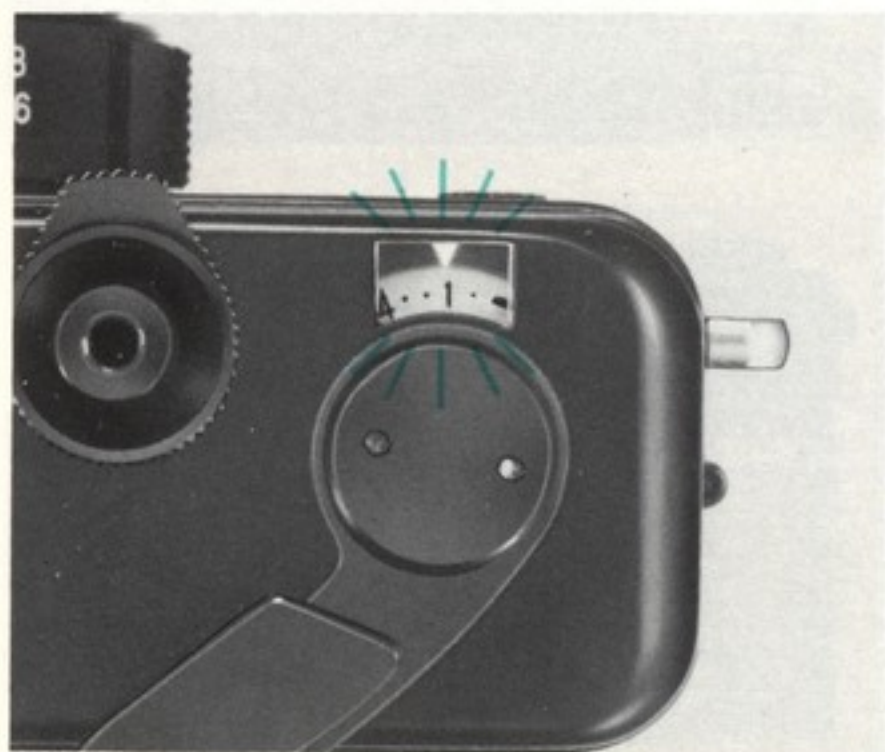
バッテリーチェックボタンを押して、フィルムカウンターのランプが点灯すれば電池は正常です。ランプがつかないときは、新しい電池と交換してください。

暗いところでは、カウンター照明用としても使用できます。

(34頁参照)

〈こんなときは、バッテリーチェックランプはつきません〉

- (1) ⊕と⊖を入れ間違えたとき
- (2) 電池の両極がよごれているとき
- (3) 電池が消耗しているとき
- (4) 電池が入っていないとき



フィルムの入れ方

(フィルムを入れるときは、直射日光をさけてください。)

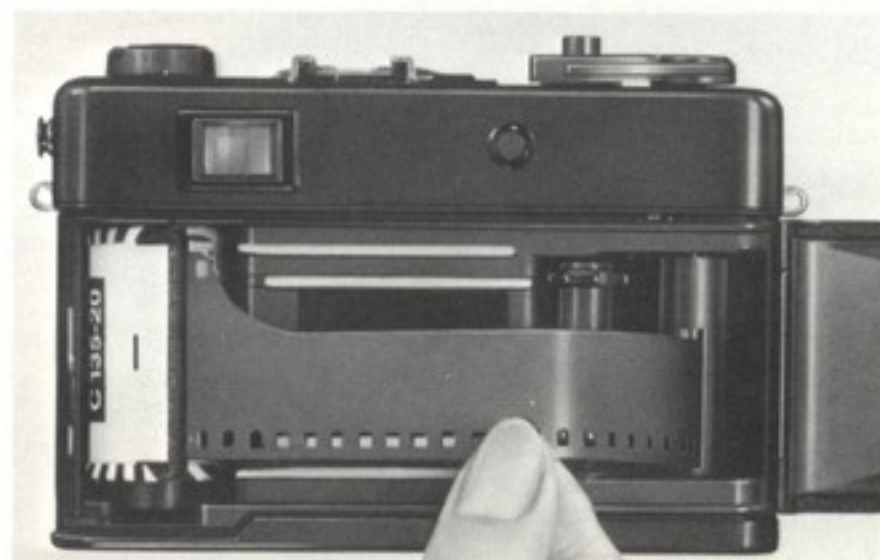
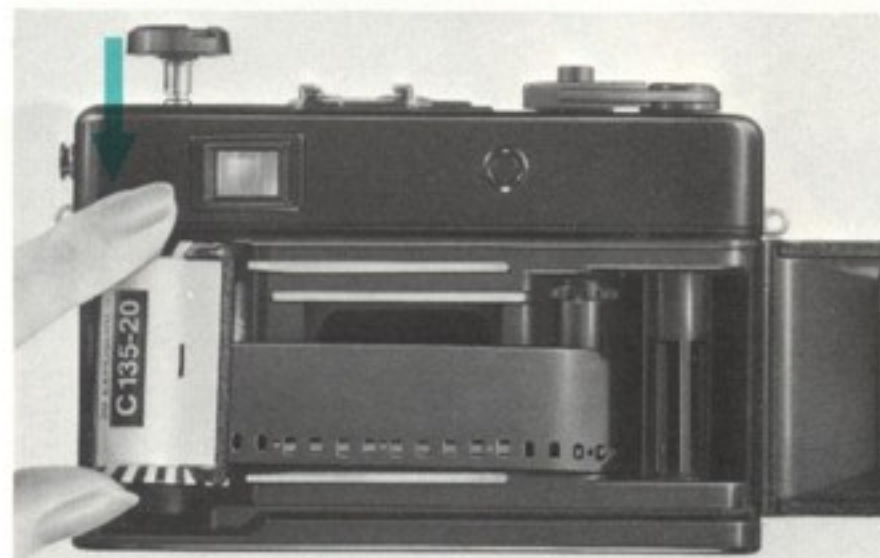
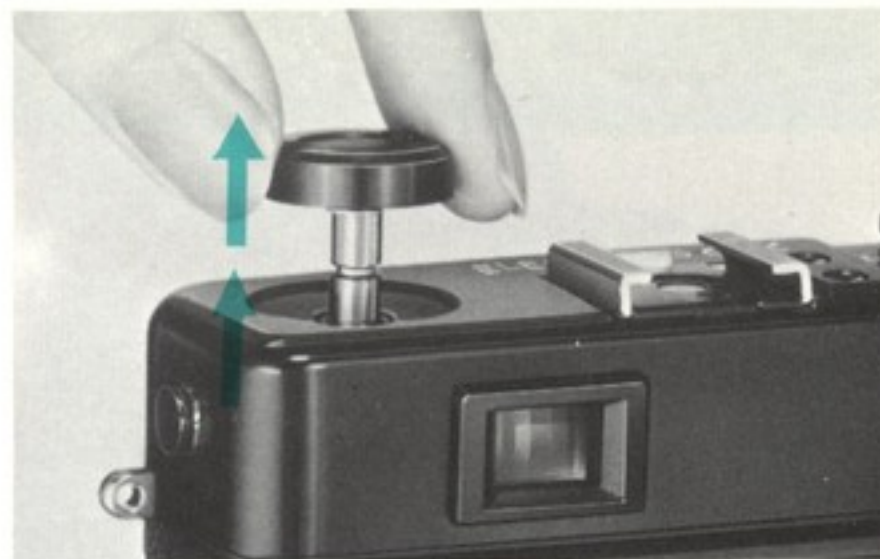
- 1 フィルム巻戻しノブをかるく引き上げ、さらに強く持ち上げて裏蓋を開けます。

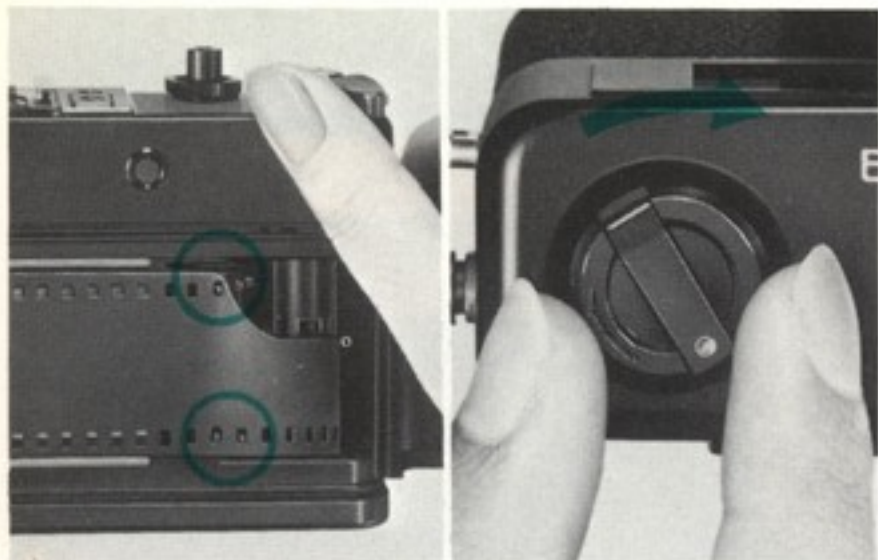
裏蓋が開くと同時に、フィルムカウンターは、自動的にスタートゾーン(赤)になります。

- 2 フィルム室にフィルムを入れ、巻戻しノブをもとの位置に押し下げます。

フィルムは一般のパトローネ入り35ミリフィルム(12、20、36枚撮り3種類)を使います。

- 3 フィルムの先端を、巻取りスプールの溝へ十分に差し込んでください。どの溝に差し込んでかまいません。





4 フィルムを巻上げます。
フィルム巻上げレバーは、止まるまで巻上げてください。フィルムのパーフォレーション（フィルム送り穴）が、スプロケット（送り歯車）に正しくかみ合っているのを確認してから裏蓋を閉めてください。
フィルム巻戻しノブを、矢印の方向へ止まるところまで静かに回して、パトローネ内のフィルムのたるみをなくします。

5 フィルムカウンターが“1.”になるまで、カラ空しをしてください。“1.”から撮影スタートです。
撮影枚数は巻上げるごとに、自動的に表示されます。

6 撮影途中でのフィルム送りの確認は、巻上げレバーを巻いたとき巻戻しノブが同じ方向に回れば、フィルムは正しく送られています。

ASA感度の合わせ方

フィルムを入れ終わったら、必ず使用するフィルムのASA感度を合わせます。

ASA感度レバー (☺) を押しながら動かして、使用フィルムのASA感度数に合わせてください。

●これは適正露出を得るための数値ですから、正しく合わせてください。

使用フィルムのASA感度数は、必ず絞りリングの目盛と一致させ、クリック位置におくようにしてください。



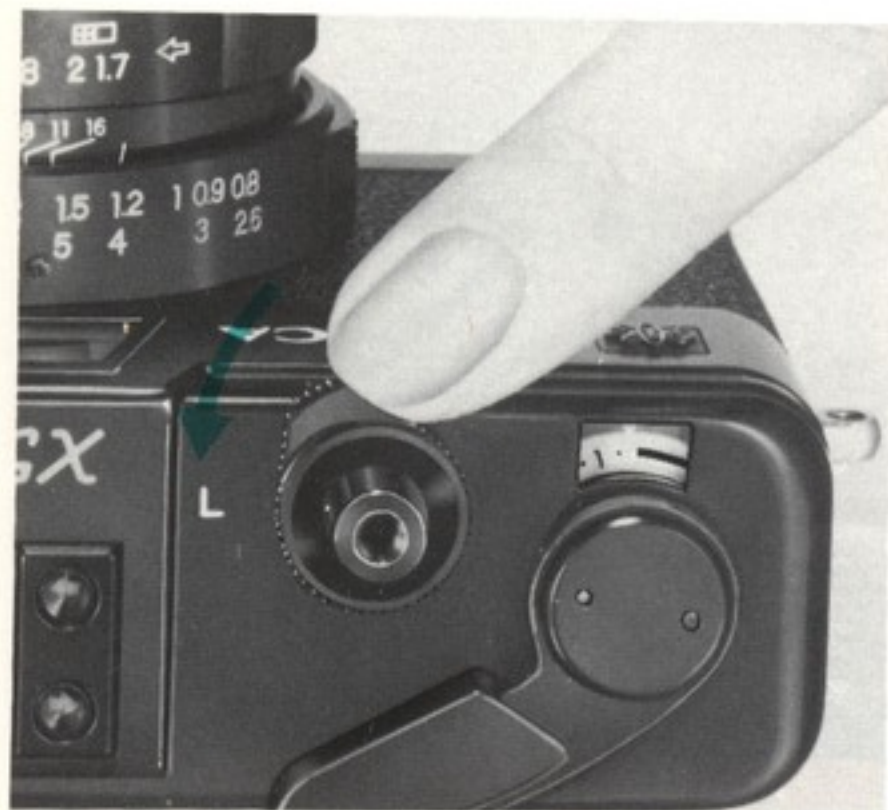
<ASA感度とは>

フィルムが光に感じる度合いを数字で表わしたものが、ASA感度でフィルムの外箱か説明書に必ず表示されています。

ASA・DIN換算表

ASA	25	32	40	50	64	80	100	125	160	200	250	320	400	500	640	800
DIN	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

シャッターロックレバー・ファインダー



ロックレバーを回して、Lに合わせれば、シャッターボタンがロックされ押しでも動きません。

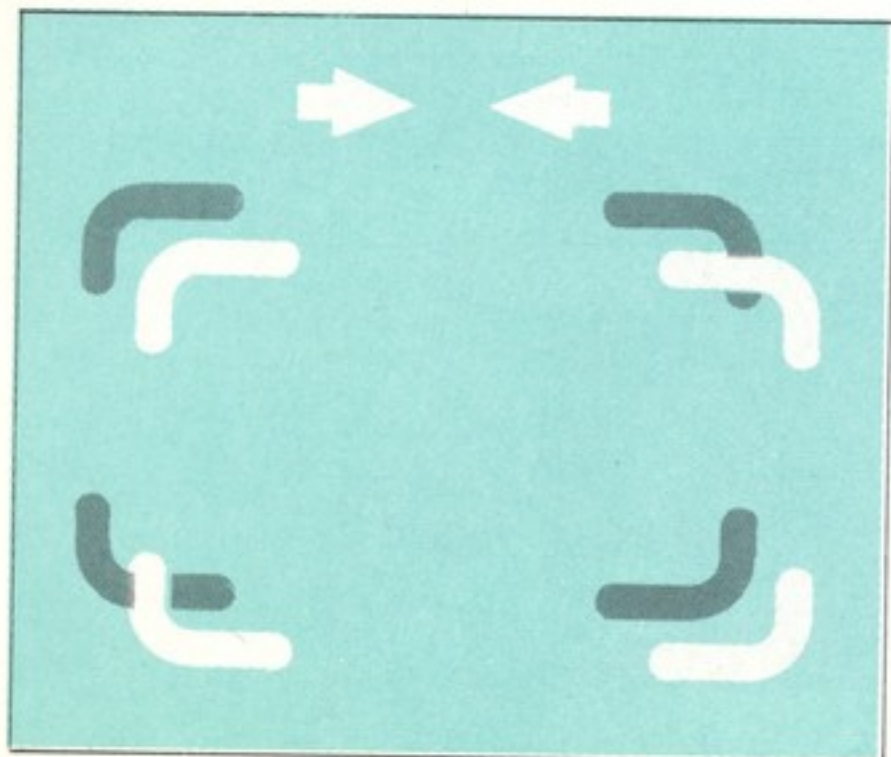
巻上げレバーを巻上げても、電池消費を防ぐことができますから、撮影しないときは、必ずロックしておく習慣をつけてください。



ロックした状態



ロック解除の状態



〈ファインダー〉

ファインダーをのぞくと、明るい枠が見えますが、これをブライトフレームといいます。

このフレームの内側に入る視野が、実際に撮影される範囲になります。

撮影するときは、このブライトフレーム内に入るように構図を決めてください。

ブライトフレームは、距離調節に応じて自動的に移動し、パララックス（視差）を修正しますから、フレームの中で構図を決めれば、撮ろうとしたものが、写っていないという失敗はありません。

ピントの合わせ方

ファインダーをのぞきながら、真中の二重像が一つに見えるように、距離リングを回して合わせます。

ファインダー中央部の、明るい菱形の中の像がずれていれば、ピントは合っていませんが、これが一つに見えるときはピントが合っています。



ピントが合っているとき



ピントが合っていないとき



美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントが悪い写真の多くはカメラブレが原因ですから、カメラに慣れるまで何回も練習してください。

シャッターボタンは、指の腹で静かに押し下げます。そのとき指やケースなどが、レンズや受光部にかからないように注意をしてください。



〈撮影の基本〉


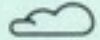

光源の方角から撮影するのを、順光撮影といいます。写すものに光が平均してあたり、色のバランスもよく美しい写真が撮れます。



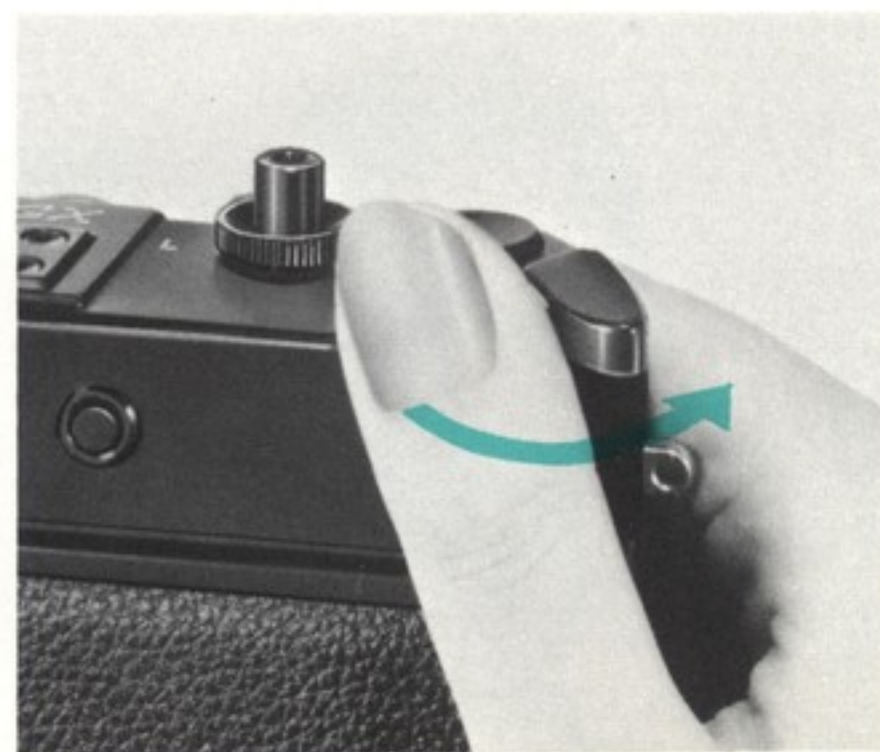
オート撮影のしかた

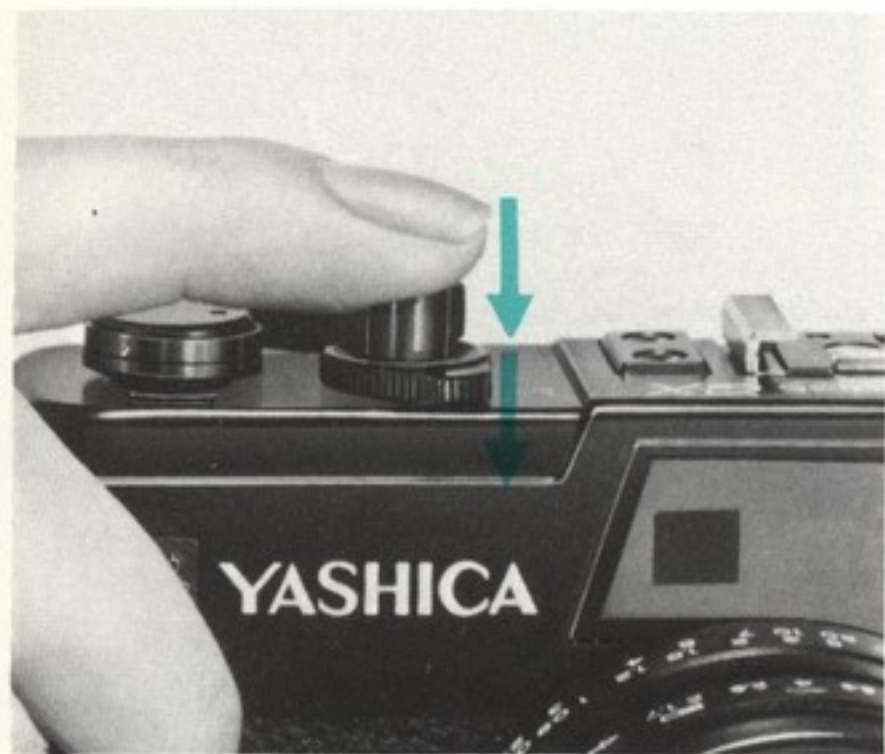
ヤシカエレクトロ35GXは、ローソク1本の明るさから快晴の雪景まで、いつでもどこでもきれいなカラーが自動的に撮影ができます。

1 絞りリングのお天気マークを、明るさや天候に応じて指標に合わせます。

	直射日光下の屋外撮影の場合	16・11・8
	曇天、または日陰の場合	5.6・4・2.8
	室内撮影、または夜の場合	2・1.7

2 フィルムを巻上げます。同時にカチッと音がして露出機構が作動する状態になります。





3 ファインダーをのぞきシャッターボタンを軽く押しながら
露出チェックランプを確認します。

赤ランプ（矢印）がつかなければ、そのままシャッターボタン
を押し下げて撮影してください。



〈露出チェックランプ〉

露出チェックの赤・黄ランプ（矢印）は、ボディ上部にも点灯
するようになっています。

露出チェックのしかた

シャッターボタンは二段階に作用するようになっており、最初に軽く押すと露出機構が働き、さらに深く押せばシャッターが切れるようになっています。

露出チェックランプがつかなければ

そのまま撮影してください。

シャッターボタンを軽く押したとき、チェックランプ（矢印）がつかなければ、さらにシャッターボタンを押してください。約 $\frac{1}{30}$ 秒より速いシャッター速度で撮影できます。

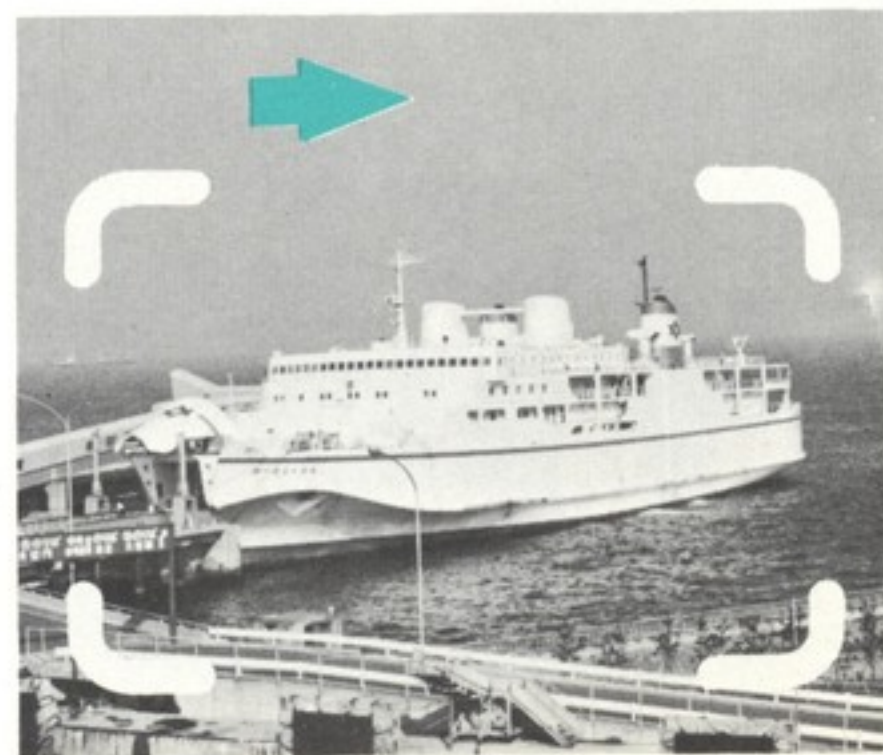
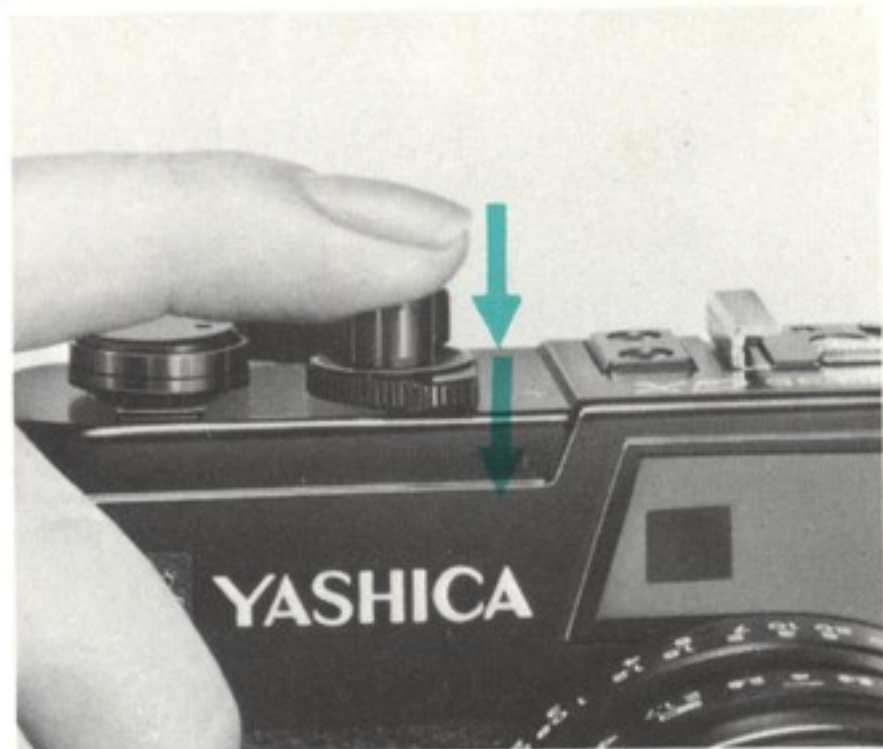
➡赤ランプ（矢印）がつくときは

露出オーバーの警告です。

シャッターボタンを軽く押して、➡赤ランプ（矢印）がついたときは、露出オーバーの警告です。

絞りリングをランプが消えるまで矢印方向に回して、ランプが消えたら撮影してください。

それでも消えないときはNDフィルターを使用してください。（NDフィルターは、光量を制限するフィルターです。）





←黄ランプ（矢印）がつくときは

手ブレに注意して撮影します。

露出は適正ですが、シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 秒より遅いスローシャッターで切れるため、カメラがブレないように注意をして撮影してください。



〈黄ランプ（矢印）がついたときの撮影方法〉

絞りリングをランプが消えるまで、矢印方向に回してください。約 $\frac{1}{30}$ 秒より速いシャッター速度になりますから、手持ちで撮影できます。

もし、この方法でランプが消えないときは、三脚を利用するか台に置くなどカメラを固定して撮影するようにしてください。カメラブレを防ぎシャープな写真が撮れます。

また、専用ストロボを使うのも一つの方法です。

逆光撮影・スポット撮影の方法

順光撮影が基本ですが、逆光撮影や強いスポットライトのあたっている舞台などの撮影には、普通のE E撮影ですと主要被写体が暗くなったり明るくなりすぎる場合が出てきます。そのときは、次の方法をご利用ください。

〈逆光撮影の場合〉

専用オートストロボ（ヤシカE S-20オート）を使用して、オートストロボ撮影をしてください。（21～24頁参照）

また、ストロボをお持ちでないときは、ASA感度をさげることで暗部を補正できます。

使用フィルムがASA100のとき、ASA50か25にします。

※逆光撮影のときは、フードをご使用ください。

〈スポット撮影の場合〉

ASA感度がフィルム指定値のままですと、主要被写体が白っぽくなります。そのときはASA感度をあげて補正します。

ASA100の場合はASA200か400にします。

ASA感度を変えて逆光撮影またはスポット撮影をし終えた後は、必ずASA感度を元に戻してください。



逆光撮影

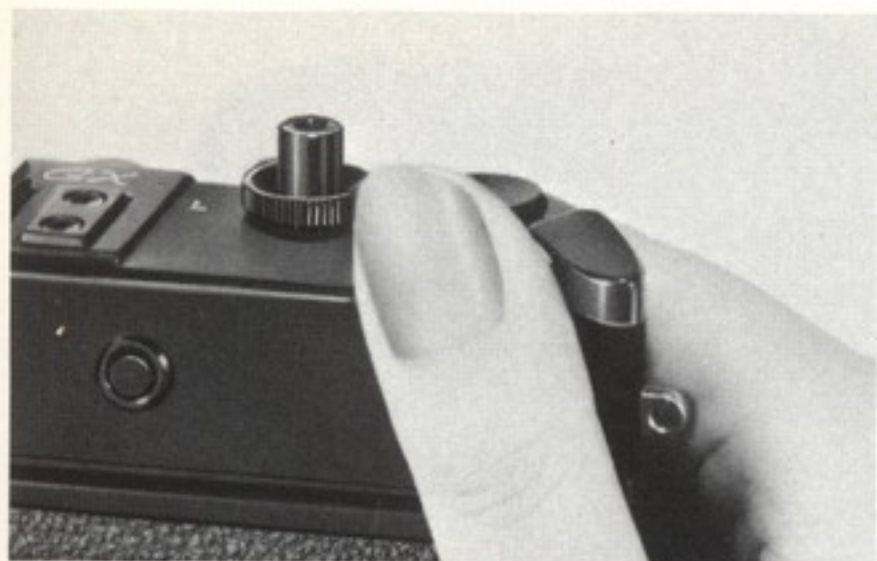


スポット撮影

セルフタイマーの使い方

記念撮影や旅行などで、自分も一緒に写真の中に入りたいたときは、セルフタイマーをお使いください。

1 ピントを合わせフィルムを巻上げます。



2 レンズ鏡胴部にあるセルフタイマーロックを下に押しながら、セルフタイマーレバーを引き上げてセットします。



3 シャッターボタンを押すと、セルフタイマーレバーが作動し約8秒後に自動的にシャッターが切れます。

セルフタイマーレバーは、セルフタイマーロックを押さないと動きません。



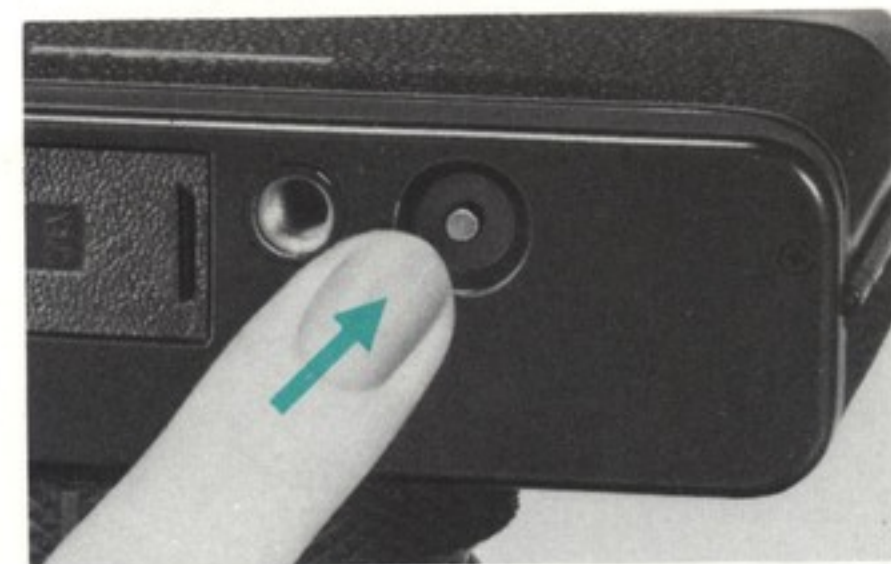
フィルムの取り出しかた

フィルムが全部撮り終わったかどうかは、フィルムカウンターに枚数が表示され確認することができます。

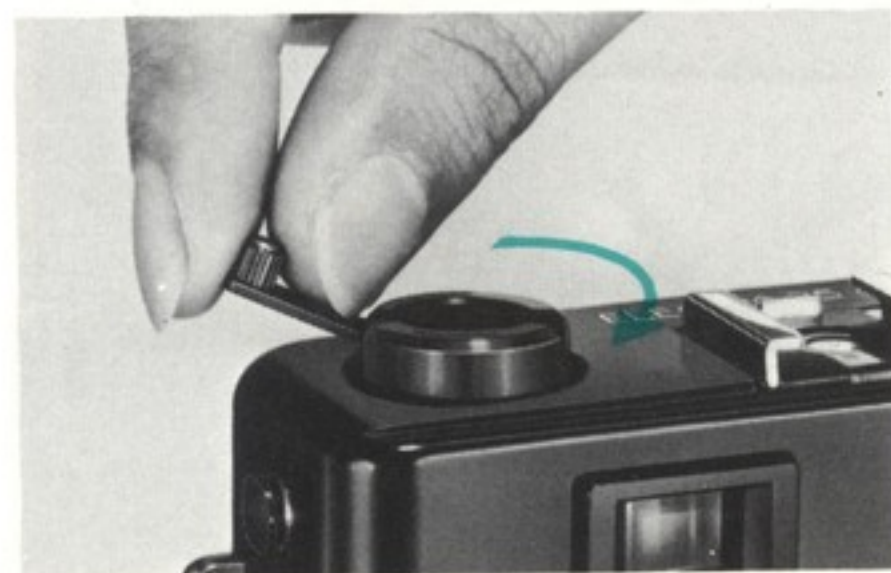
写し終わったフィルムは、必ずカメラの中でパトローネに巻戻してから取り出してください。



1 フィルム巻戻しボタンを押します。



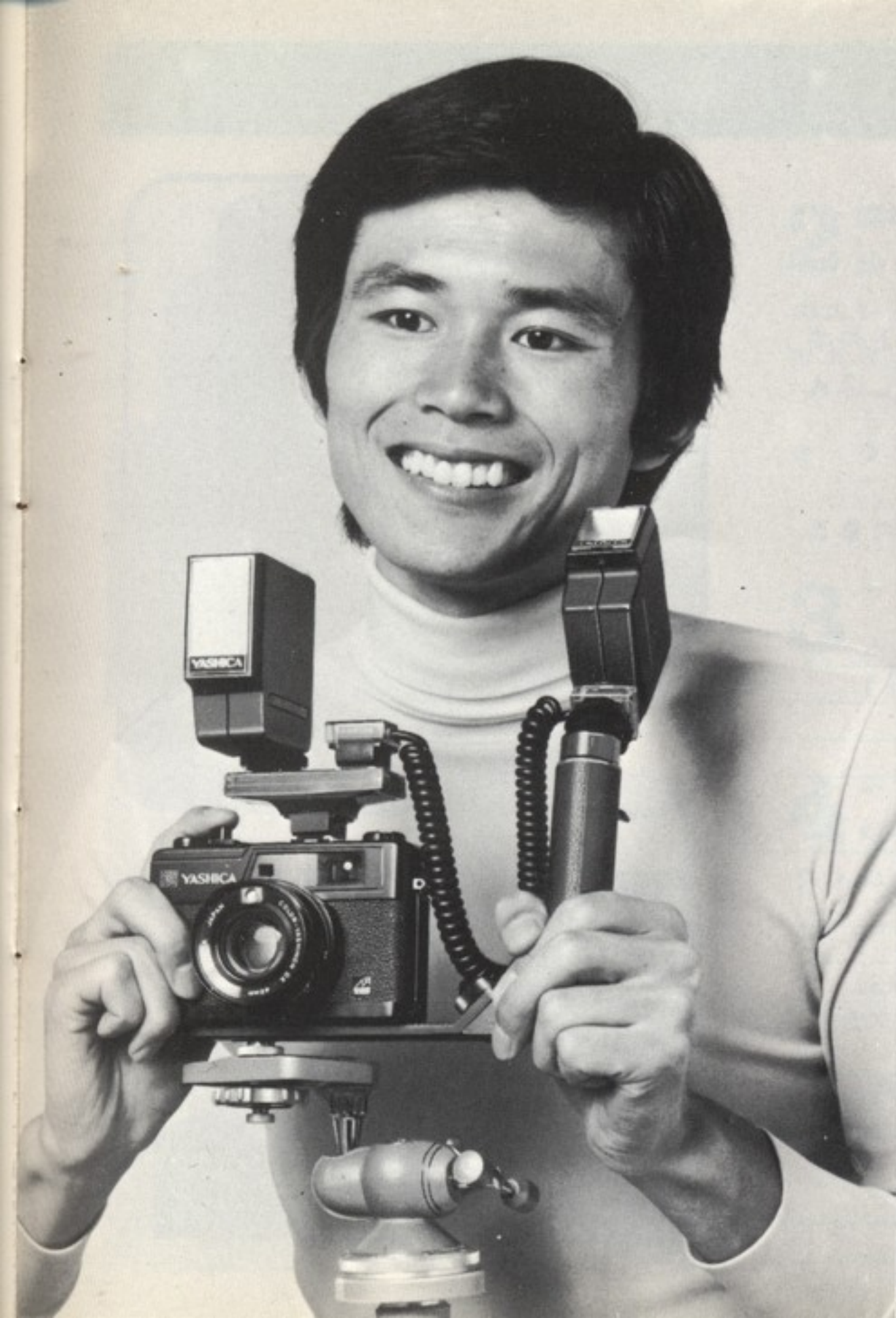
2 巻戻しノブのクランクを起して、矢印方向に回します。
巻戻すと同時にフィルムカウンターが逆転して、どこまで巻戻したか巻戻し状態がわかります。
カウンターがスタートゾーン(赤)になったら、巻戻しは完了です。



3 裏蓋をあけて、フィルムパトローネを取り出します。

撮影中にフィルムが巻上げられなくなったときは、必ず巻戻しボタンを押して巻戻してください。

無理に巻上げると、フィルムが切れます。



オートストロボ撮影編

エレクトロ35GXは、ヤシカES-20オートの使用により、すばらしいストロボ撮影が簡単にできます。

いろいろなアクセサリを利用して楽しいストロボ撮影ができますが、はじめに、説明をよく読んで十分理解してから撮影をはじめてください。撮影範囲を広げるために、このカメラのもっている機能を活用してください。

ヤシカES-20オートによるストロボ撮影

〈基本撮影〉

1 ストロボを取付けます。

アクセサリシューからシューカバーをはずし、ストロボをアクセサリシュー（ダイレクトX接点）に確実に差し込んで、固定ネジを回してストロボを取付けます。

これだけで電気回路が接続します。

このとき、シンクローターミナルの保護キャップは、つけたままでご使用ください。

ES-20オートストロボの性能

ガイドナンバー	20(ASA100・メートル) 33(ASA25・フィート)	
照射角度	上下55° 左右55°	
閃光時間	1/500秒～1/20,000秒	
発光間隔	アルカリ電池 (AM-3)	約6秒
	マンガン電池 (UM-3)	約7秒
発光回数	アルカリ電池 (AM-3)	約160回
	マンガン電池 (UM-3)	約45回
光質	昼光用	
電源	単3乾電池4個使用 (AM-3またはUM-3)	
シュー取付部	ダイレクトシュー、専用調光端子付 リングナットによる脚部固定式	
バウンス機構	左右方向90° 回転可能(右35°にクリック付)	
その他	マニュアル用露出換算板付 一般カメラには普通ストロボとして使用できる パイロットランプ付 (テストボタン兼用)	
寸法・重量	83.5×83×34.5mm	165g





2 標準絞りを合わせます。
絞りリングを回して、ASA感度レバー(☒)をレンズ鏡筒のエレクトロフラッシュマーク(☒)に合わせます。

※ ASA 80・100フィルムを使用する場合、フラッシュマーク(☒)に合わせると、絞りはF 4になります。

※ マーク横の(●)は、フラッシュバルブ用のマークです。

3 フィルムを巻上げピントを合わせます。
ストロボ撮影の標準連動距離範囲は5メートル以内です。

4 ストロボの電源スイッチをONにしパイロットランプの点灯を確認してから、シャッターボタンを押してください。
ストロボが発光して撮影ができます。



オートストロボ撮影の連動距離範囲

オートストロボの撮影範囲は、表の通りです。

基本撮影以外で作画意図により、絞りを変えて（標準絞り以外で）撮影したいときに使用します。

例えば、ASA100フィルムを使用して、絞りをF2.8にセットすると、1～7mがオートストロボ撮影のできる範囲（連動距離範囲）です。

（標準絞り）

ASA 感度による絞り数 (F)				連動距離範囲
25	50	100	200	
		1.7	2	2 ~ 11 m
	1.7	2	2.8	1.6 ~ 10 m
1.7	2	2.8	4	1 ~ 7 m
2	2.8	4	5.6	0.8 ~ 5 m
2.8	4	5.6	8	0.8 ~ 3.5m
4	5.6	8	11	0.8 ~ 2.5m
5.6	8	11	16	0.8 ~ 1.8m
8	11	16		0.8 ~ 1.2m

※連動距離範囲は、ストロボをカメラに取り付け、被写体に向けて発光した場合の距離範囲です。バウンス撮影やストロボを移動し、斜めの角度から、被写体に向けて発光した場合は、連動範囲が変わります。



デイトライトシンクロ

デイトライトシンクロとは、日中の明るい光線の撮影にフラッシュを同調させて、逆光撮影のときなどの暗部の明るさを補う、方法です。

窓際の逆光撮影、木陰での撮影や帽子のひさしの影を消したいときなどにデイトライトシンクロを利用すると、被写体と背景が両方ともきれいに写ります。

この場合、ストロボは補助光として使用するため絞りのセットはオート撮影のしかたと同じ方法で合わせます。

たとえば、ASA 80・100フィルムを使用のとき

晴天の日射しのとき	絞り	F 11	F 16
木陰での撮影のとき	絞り	F 5.6	F 8
室内逆光補正のとき	絞り	F 4	F 5.6

この場合、赤ランプ（矢印）がついたときは、消えるまで矢印方向へ絞り込んでください。



ES-20オートストロボの特長をいかした撮影

ES-20オートストロボは首振機構により、左右方向にそれぞれ90°までの回転ができます。

ストロボを取付ただけでカメラを横位置に構えたときは、左右の白い壁面を、また縦位置の場合には、天井をそれぞれ利用してバウンス撮影ができます。

ディフューズド撮影

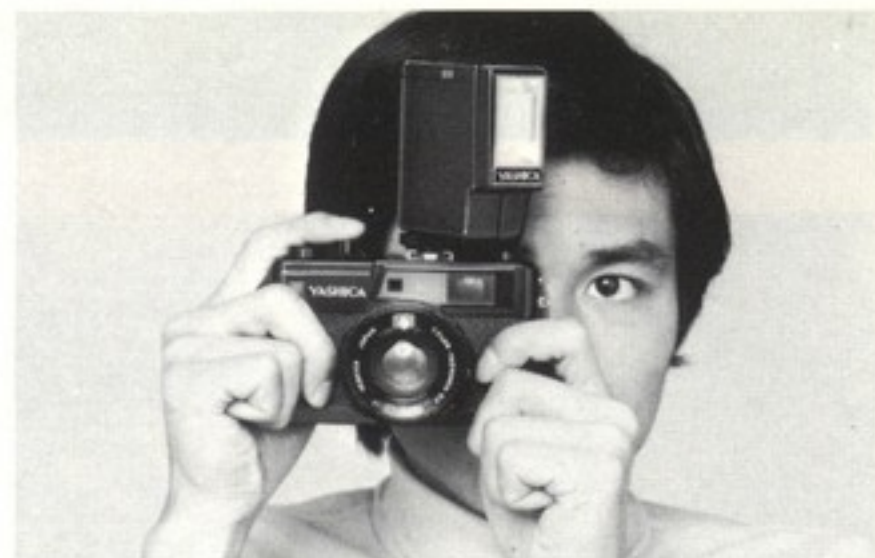
ディフューズド撮影とは、ハンカチ・ガーゼ、またはトレーシングペーパーなどを発光部の前面にあてて写す方法です。

ソフトな照明効果が得られます。

◎超高速瞬間撮影ができます。

専用ストロボの閃光は、最高1/20,000秒まで制御されていますから、高速の回転体などを瞬間的にキャッチできます。

周りを暗くして、被写体いっぱい近づいて(0.8m)撮影するか絞りを開いて撮影します。





＜専用アダプターの利用による撮影＞

専用アダプターとして、カメラからストロボを離して撮影することのできる調光用延長コードや、ストロボを2個同時に利用できるツインフラッシュアダプター、また、バウンス撮影するときに必要なテクノブラケットST-7などがあります。

◎ ストロボを移動して撮影ができます。

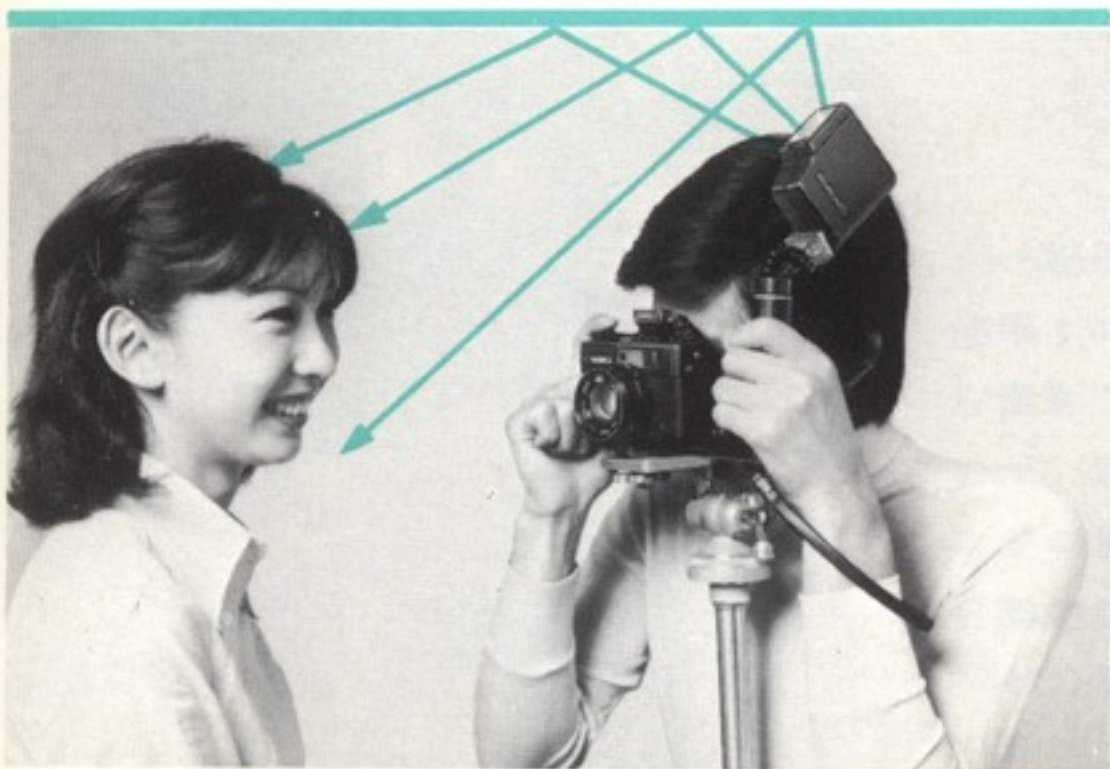
ストロボを移動し、角度も自由に選択して撮影します。人物撮影するときなど、ストロボを斜め上の角度から、発光させると立体感のある写真が撮れます。

近接撮影のときストロボを遠く離したり、またすこし遠い被写体を撮りたいときに、ストロボだけを近づけてライティングするなどのテクニックも使えます。

◎ バウンス撮影ができます。

被写体に直接光をあてず、白色の天井、壁などへ向けて発光し、この反射光により被写体を照明する方法です。

ムードをこわさず立体感のある写真が撮れます。



◎専用ストロボの2灯同時使用ができます。

ES-20オートストロボを2個並べて発光させると、ガイドナンバー28の強力ストロボとして使えます。

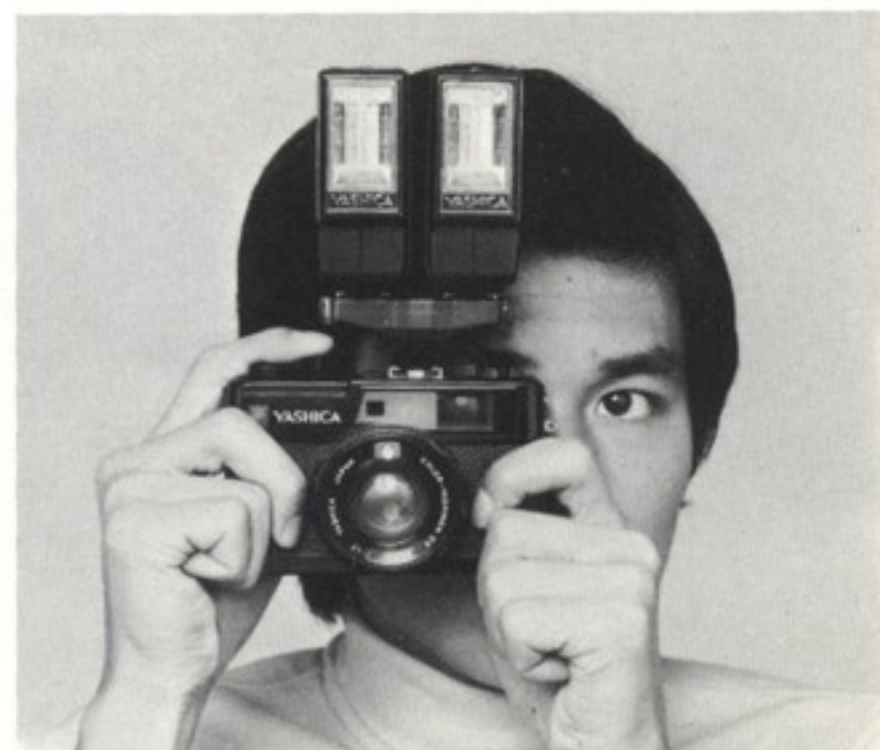
また、高度なテクニックですが、1個を主光源、もう1個を補助光とする使い方もでき、ライティングポジションの選択により立体的な効果を出すことができます。

専用アダプターの詳細は、専用オートストロボの使用説明書か各アダプターの使用説明書をお読みください。



オートES-220ストロボをご利用の場合

オートES-220ストロボを、エレクトロ35GXにご使用になる場合は、ES-20オートストロボと同じにご使用になれますが、デイトライトシンクロ撮影はできませんのでご注意ください。



フラッシュバルブ、一般ストロボを使用するとき



〈フラッシュバルブ使用のとき〉

フラッシュバルブAG-3N（ガイドナンバー30）を使用する場合も、オートフラッシュ撮影ができます。このとき、絞りリングを回してセットされているASA感度レバーを、フラッシュバルブ用のマーク（●）に合わせてください。

使用フィルムのASA感度	使用する絞り	連動距離範囲(m)
ASA 400	絞り F 11	} 2 ~ 6 m
ASA 200	絞り F 8	
ASA 100	絞り F 5.6	
ASA 50	絞り F 4	
ASA 25	絞り F 2.8	

なお、その他のフラッシュバルブを使用のときは、ガイドナンバーによって絞りを決めて撮影してください。



〈一般のストロボを使用のとき〉

使用するストロボのガイドナンバーによって、絞りを決めてから撮影してください。（ガイドナンバーを撮影距離で割ったものが、適正な絞りになります）

ストロボの発光と同時に、シャッター速度はフラッシュ秒時に自動的に切替り撮影ができます。

なお、オート撮影に切替えるときは必ずストロボをはずしてください。

被写界深度とは

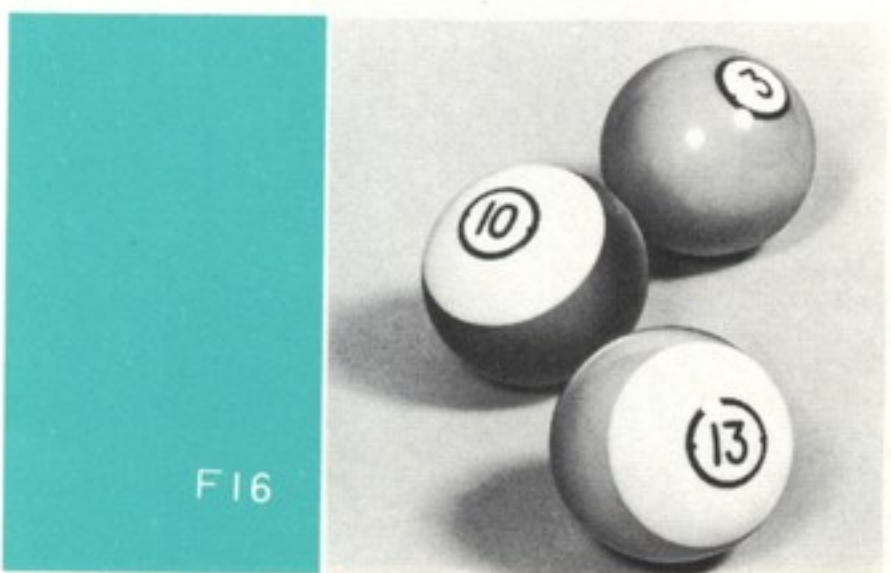
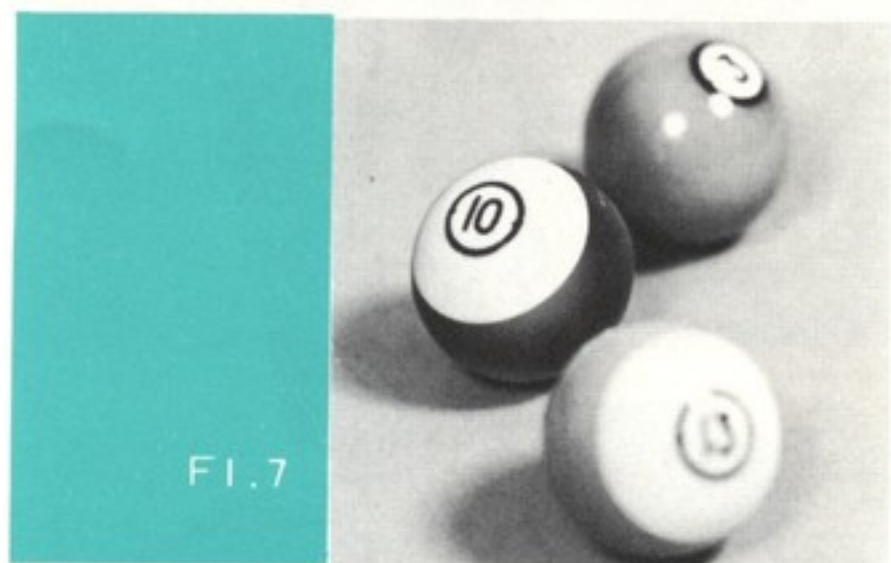
被写体にピントを合わせたとき、被写体が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。

これを被写界深度といいます。

作例写真は、真中の被写体にピントを合わせていますが、F1.7の開放状態ではボケている前後がF16に絞ると、非常にシャープになります。

また、被写界深度は、レンズ鏡胴の被写界深度目盛で読みとることができます。

例えば、2メートルの距離にピントを合わせ絞りF16なら両側の16の数字に対応する距離、約1.3メートルから5メートルまでピントが合うことがわかります。



アクセサリ

専用オートストロボ(ES-20オート)

エレクトロ35GXの性能を、フルにいかす専用ストロボです。

GXとの組合わせで完璧なオートストロボ撮影ができます。



ソフトフード

54ミリ(カブセ)フードを使用してください。反射光の多いところでは、不要な光線がレンズに入らないように、フードをつけた方が効果的です。

ゴム製のフードで、これをカメラにつけたままでレンズキャップが取付けられます。



グリップ三脚ST-7

従来の三脚と異なり、胸や壁にあててカメラを固定することにより、スローシャッター撮影のブレを防ぎます。小型軽量でしかも安定性は抜群です。



フィルター

52ミリ(ネジ込み)専用フィルターを使用してください。

フィルターを使用しても、露出倍数を考慮する必要はありません。

カラー用フィルター

1A、80B、82A、81B、85C、FLY-D、

カラー・黒白用フィルター

偏光、ND₄、ND₂

黒白用フィルター

UV、Y₁、Y₂、O₂、R₁、G₁、B



コンバージョンレンズ

標準レンズにネジ込むだけで望遠と広角が思いのままです。

望遠レンズ(F5.6、51.2ミリ)

広角レンズ(F5.6、32.5ミリ)

性能表

レ　　ン　　ズ	カラーヤシノンDX 40mm F1.7 4群6枚構成、最短撮影距離0.8m、画角56°
シャ　ッ　タ　ー	電子シャッター（LT～1/500秒）、高性能IC1個、半導体3個使用、セルフタイマー付（ロック機構付）
測　光　方　式	電子シャッターとの組合せによる絞り優先式、SBC受光素子、トップアイ方式、絞り目盛（F1.7～F16）、お天気マーク3点付、ASA目盛25～800、エレクトロフラッシュマーク  付、露出連動範囲EV0～EV17、露出表示 赤・黄ランプ（矢印）をファインダー内及びボディ上に表示
フ　ァ　イ　ン　ダ　ー	採光式ブライトフレーム付、パララックス自動補正、倍率0.62倍（∞のとき）
焦　点　調　節	直進ヘリコイド式、二重像合致式連動距離計、被写界深度目盛付、距離目盛0.8～∞（m）、2.6～∞（ft）
フ　ィ　ル　ム　送　り	レバー式1作動巻上げ、セルフコッキング、ヤシカイージーロードシステム、カウンター順算式自動復元、クランク式フィルム巻戻し（カウンター逆転機構付）
オ　ー　ト　フ　ラ　ッ　シュ	ヤシカエレクトロオートフラッシュシステム、専用オートストロボ（ES-20オート）使用、X接点、FPS方式（オートフラッシュ電子式自動切替）、鏡胴部  マーク ●マーク、フラッシュバルブAG-3N使用でもオートフラッシュ撮影可。
そ　の　他	アクセサリシュー（ダイレクトX接点・調光端子付）、シンクロターミナル、シャッターロック機構付、カウンター窓照明兼用バッテリーチェッカー フィルター口径 ネジ込み52mm、フード口径 カブセ54mm
寸　法　・　重　量	123×75.7×64mm、580g

カメラの手入れ・電池の取扱い

- カメラは暑い場所にながく放置すると、熱のためフィルム感度、電池、カメラの電気系統に影響を及ぼし、正しい露出が得られないことがあります。暑い場所にながく放置しないよう注意してください。万一カメラが熱くなったときは、気温程度にさがるのを待ってから使用してください。
- レンズはハンカチなどで拭かず、レンズブラシで軽くはらってください。
- フラッシュ撮影をしないときは、感電防止用として、シューカバーをアクセサリシューに、ターミナル用保護キャップをシンクロターミナルに差し込んでおいてください。
- カメラの狂う原因は、ショック、湿気、塩気などがあります。乱暴に扱わないように手入れは充分して、末永くご愛用ください。

〈電池の取扱上の注意〉

- ◎電池の両極が汗や油などでよごれたりしますと、接触不良をおこす原因となります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- ◎長期間カメラを使用しないときは、電池をカメラから取りだしてください。
- ◎長期間の旅行などでは、予備の電池を準備しましょう。
- ◎使用済みの電池を、火中に捨てたり分解したりするのは、危険ですから充分注意してください。

水銀電池のお取替は、使用済の電池と交換でお願いいたします。

カメラに使用している水銀電池は、完全シールをしていますからカメラをご使用中に電池の中身が外へ出ることはありません。

身近な水銀汚染を防ぐため、新しい電池をお求めの際は、必ず使用済の水銀電池を持参し、カメラ店または電気店にて現品と引換でお求めください。

●ヤシカカメラに関するご質問及び修理については 下記へお問い合わせ下さい。

Y	株式会社	ヤシカ	東京都渋谷区神宮前 6 - 27 - 8	〒150	TEL 03-400-1411	代表
	岡谷工場		長野県岡谷市長地 2 8 0 0	〒394	TEL 02662-7-2131	代表
	東京営業所		東京都渋谷区神宮前 6 - 27 - 8	〒150	TEL 03-400-1411	代表
	大阪営業所		大阪市西区北堀江通 1 - 46 山田ビル	〒550	TEL 06-532-2251	
	名古屋営業所		名古屋市中区錦 3 - 12 - 10	〒460	TEL 052-961-0656	
	福岡営業所		福岡市博多区中呉服町 2 - 7 博多村山ビル	〒812	TEL 092-281-5749	
	札幌営業所		札幌市中央区北四条西 5 - 1 林業会館ビル	〒060	TEL 011-241-5866	
	仙台営業所		仙台市五橋 2 - 11 - 1 ショーケー本館ビル	〒980	TEL 0222-22-7528	
	広島営業所		広島市大手町 3 - 5 - 3 野村ビル	〒730	TEL 0822-43-7437	
	横浜営業所		横浜市中区万代町 1 - 2 - 3 座間ビル	〒232	TEL 045-641-3333	
	新潟出張所		新潟市蒲原町 3-28 明石ショッピングセンター内	〒950	TEL 0252-44-3866	
	金沢出張所		金沢市春日町 8 - 12 永原ビル	〒920	TEL 0762-52-5777	
	高松出張所		高松市内町 4 - 1 小松ビル	〒760	TEL 0878-51-2495	
	岡山出張所		岡山市富田町 2 - 9 - 16	〒700	TEL 0862-22-8204	
	大宮出張所		大宮市東町 2 - 2 9 1 グリーンマンション	〒330	TEL 0486-43-0566	
	静岡出張所		静岡市駿河町 5 - 6 寿ビル	〒420	TEL 0542-53-7822	